

目指す幼稚園像	家庭地域と連携し、明るく健康な幼児が育つ幼稚園
---------	-------------------------

重点目標	1. 幼児が遊びや活動に主体的に取り組むための教育活動の実施 2. 基本的な生活習慣が定着し、進んで行う子の育成 3. 家庭・地域に信頼される園づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)
	E	よくわからない

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標				年度評価(2月 6日 現在)				実施日 令和 7年 2月 14日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・教師の話を中心して最後まで聞けない幼児が多い。 ・絵本や紙芝居を見る時に集中して見られない子や、あまり絵本に関心を示さない幼児が見られる。	・ <u>保育内容の充実</u> ③共同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現	・聞く力を伸ばすために絵本を活用していく。文章の量が幼児の発達に合っているか、幼児の興味に合った内容かを実践し、考察する。 ・幼児が集中して話を聞けるようになるための環境を整え、毎日読み聞かせを行う。 ・絵本の読み聞かせに関する研修会に参加した職員を中心に園内研修を行い、教員の資質能力の向上を図る。 ・保護者に対して絵本に関するアンケートを実施すると共に、家庭でも絵本に親しめるよう、幼稚園から絵本の貸し出しを行う。	・話を集中して聞けるようになるために、全学級で環境の整備を行うことができたか。 ・各学級で毎日、読み聞かせを行うことができたか。 ・絵本を読んでもらうことを喜び、集中して見たり話を聞ける幼児が増えたか。 ・家庭での絵本の読み聞かせを支援する取り組みを実施できたか。	・椅子を使わずに床に座って読むようにし、幼児同士が近い距離で集まったり、教師との距離が近くなることで集中力が高まる姿があった。背景には何もない状態にするなど、落ち着いて見ることができるよう環境構成を工夫した。 ・各学級でほぼ毎日絵本の読み聞かせを行った。 ・絵本を読んでもらうことを喜び、集中して楽しく見られる子が増えた。 ・「すぐーる」で保護者に絵本に関するアンケートを実施した。また、保護者の絵本ボランティアを開始したり、幼稚園や図書館から絵本を借りる活動を行った。	A	・外部(図書館の出張おはなし会、絵本ボランティア)の人に読んでもらう機会を増やし、絵本への興味関心をさらに高める。 ・絵本の読み聞かせの時間だけでなく、教師の話を中心して聞くことができるように指導を工夫する。 ・保護者アンケートでは、絵本の読み聞かせに対して家庭の関心の差が大きことが分かった。懇談会や学年だよりを通して絵本の情報や、読み聞かせの大切さについて保護者に発信していく。	・読み聞かせの様子はとても楽しそうであり、集中している姿が見られた。椅子に座る、床に座る、など発達段階に合わせた設定でこない、よく指導できている。 ・落ち着いて集中して見ることができているのも、教師が環境設定をしっかり行っているからだと思う。 ・保護者の絵本ボランティアや園内研修など、とても力を入れている。外部の人に読んでもらう機会は、よい取り組みなので、今後も続けていってほしい。 ・幼稚園での読み聞かせが、小学校へ行ってからの読書の基礎となっている。
2	・教師から声をかけられないと身の回りの始末をやろうとしない、特に年少児は家庭での経験が不足している幼児が多く見られる。 ・衣服の着脱を自分でやろうとしない子や、服の前後が分からないなど、一人で着替えられない幼児がいる。	・ <u>基本的な生活習慣の定着</u> ①健康な心と体 ②自立心	・身支度、片付けなど、習慣化できるように繰り返し指導を行う。 ・自分のことは自分でやるという意識をもてるように、「何をしたらいいか」「どうして必要なのか」を伝えていく。 ・着替えの場面を通して、やり方を具体的に伝えたり、個別に指導したりする。また、着替えの援助について、家庭でどのように関わってほしいかを保護者に伝えていく。	・自分で気付いて、身の回りのことをしようとする幼児が増えたか。 ・身の回りの始末について、幼児の発達や個々の経験に合わせながら繰り返し指導を行うことができたか。 ・着替えのやり方が分かり、自分で着替えられる幼児が増えたか。	・教師に褒められたり認められたりすることで身の回りのことに意欲的に取り組めた。給食の片付けや清掃など、自分で気付いて取り組む幼児が増えた。 ・「おうちの人が洗濯の時に大変だから、脱いだ服は裏返しを直しておこうね」と声をかけるなど、幼児が必要性感じられるよう指導を工夫した。 ・自分で着替えることができない幼児に対しては保護者に園の様子を伝え、家庭で協力してほしいことを具体的に伝えた。	A	・家庭でも身の回りのことを自分でやる機会を多くつくり、子供の取り組みを認めてもらえるように保護者に伝えていく。 ・靴が左右反対だったり、服の前後が間違っているも気付かない幼児もいるので、個別で指導をしていく。	・先生や保護者に褒められる、認められるという経験はとても大切であり、この時期のこの経験で得たことが小学校に就学してからも「頑張ろうという気持ち」に繋がっていくのではないかとと思う。 ・身の回りの始末や身支度などについては、繰り返し指導していってほしい。
3	・全園児がバス通園のため、保護者が幼稚園に来園する機会が少なく、園生活の様子が保護者に伝わりづらい。 ・びよびよ広場に遊びに来た未就園児は在園児と一緒に園庭で遊ぶことができるが、幼稚園としての関わりはまだ少ない。	・ <u>開かれた園づくり</u> ⑤社会生活との関わり	・各学級のタブレットを活用し、幼児の活動の様子を撮影する。懇談会では写真や動画を使って園の様子を視覚的に伝えていく。 ・今年度開始の連絡システム「すぐーる」を活用し、ホームページの更新についてタイムラインであげていく。 ・幼稚園内の子育て広場という良さを生かし、園行事に在園児と一緒に参加する活動を取り入れる。	・1学期と3学期の懇談会で、タブレットを活用して保護者に幼稚園の様子を伝えることができたか。 ・ホームページ更新の際、「すぐーる」で保護者に周知することができたか。 ・未就園児と在園児が一緒に行う活動を計画的に実施することができたか。	・タブレットを使って撮影した写真や動画を懇談会で保護者に見せながら、保育について説明を行った。園の様子がよく分かり、保護者の理解が高まった。 ・「すぐーる」のタイムラインを活用し、ホームページの更新について迅速に保護者に伝えることができた。 ・防犯教室や豆まきなどの園行事に、未就園児も在園児と一緒に参加した。また、在園児が「びよびよ広場」の部屋と一緒に遊ぶ活動も開始した。	A	・園生活の動画や写真に対して、保護者がとても関心を示していたので、今後もタブレットを活用して視覚的な伝え方を工夫していく。 ・連絡システム「すぐーる」を活用し、園の情報を早く分かりやすく、保護者に伝えていく。 ・今後も「びよびよ広場」の園行事参加を進めていく。幼稚園の行事に「びよびよ広場」の活動をあらかじめ組み入れる。 ・未就園児と一緒に活動する様子を、園だよりや学年だよりを通して、在園児の保護者にも積極的に発信していく。	・懇談会などで園での様子を見せてもらえるのは保護者としてもありがたいし、良い取り組みだと思う。保護者は園の様子を知りたがっているので、今後も続けてほしい。 ・未就園児と在園児との関わりは、園での行事に組み込み、交流が増えるようにしていってほしい。 ・びよびよ広場を利用している未就園児と交流がもてるのは良い。活動の様子などは、園便りやホームページなどで周知してほしい。

